

嫌いな仕事をしている人は、結局、お金の奴隷である。

もちろん誰も、死にたくないです。

死にたくないから食べる必要があり、食べる必要があるから仕事をします。

しかし、ただ死にたくない理由だけで、人生を生きるのでしょうか。

死にたくないとはいえ、誰でもみんな、最後は死ぬのです。

延命のためだけに生きるのは、生きることはできても、苦しいです。

生きがいのない人生は、つまらないです。

私たちは、子供のころの教育で「我慢はいいこと」と教えられました。

「もう大きくなったんだから我慢しなさい」「我慢できて、偉いね」などと、親や先生などから言われます。

そういうことをよく言われた影響で「そうか。我慢するのはいいことなのか」と思い込みます。

我慢をする場面があると、大人を見せるチャンスだと思います。

「泣くのを我慢するのもいいこと」

「睡眠不足になるのもいいこと」

「無理をするのもいいこと」

そのまま大人になってしまうと「仕事も我慢をしながらするものだ」と思うようになります。

「食べていくために、嫌いな仕事を我慢しながらこなす自分は、偉い」と勘違いするようになります。

「我慢をすることが偉い」という考えがあるため、我慢ができる人間ほど、社会人らしいと思います。

しかし、違うのです。



言い方は悪くなりますが、嫌いな仕事をしている人間は、結局、お金の奴隷です。

お金という主人に「私(お金)が欲しいなら、言うことを聞きなさい」と言われて「はい。何でもやります」の状態です。

お金の人生を、踊らされています。

「お金が欲しい、欲しい」と目の前にある餌のために、体力の限界まで走り続けています。

一応お金は稼げますが、疲れやすくなり、人生に満足できません。

休日だけが、生きがいになってしまうのです。

好きなことを仕事にしよう その3

お金の奴隷になるのは、やめる。